

長南町

CHONAN Town

里山をわたる新しい風



長南町長 平野 貞夫

長南町は、県のほぼ中央部に位置し、都心から60km圏内にありながら、豊かな自然といにしえから受け継がれる薫り高い文化を併せ持つ町であります。

平成25年に開通した圏央道「茂原長南インターチェンジ」の効果により、県内はもとより首都圏とのアクセスが飛躍的に向上し、ゴルフ場をはじめとした観光入込客数の増加、企業誘致による雇用や、交流人口の増加に期待を寄せているところです。現に、本町に進出していた廃校活用企業の皆さまからは、インターチェンジや、高速バスの利便性について評価いただいております。今後も強みを生かした事業展開を図ってまいります。

一方で、令和元年における一連の台風災害では、本町も甚大な被害に見舞われ、そのうえ一般的な新型コロナウイルス感染症の影響も予断を許さない状況にあるなど、我々行政を取り巻く

環境は刻々と変化しています。本町のみならず、皆さまにおかれましても対応に苦慮されていることと拝察いたしますが、このような時だからこそ、手を取り合い、難局を乗り越えるべく取り組んでいきたいと意を新たにしているところです。

今後は、災害等からの復旧・復興を基調に、過疎地域である本町の課題となっている人口減少・少子高齢化、雇用の確保、農業の後継者不足等の解決に向け、首都圏に近接しながらも手軽に都会の喧騒から離れ、田園の原風景を味わえると言う地の利を活かしながら、移住・定住人口の増加、さらなる企業の誘致等を推進していきたいと考えています。現在、令和3年度からの長南町第5次総合計画に重点プロジェクトとして位置づけ、全庁を挙げて協議・検討の作業を行っています。また、第2期長南町まち・ひと・しごと創生

総合戦略及び新過疎法に基づく過疎計画との整合を図りつつ、「持続可能な、住みやすい町」として次の世代にバトンを渡せるよう、邁進してまいります。



■圏央道 茂原長南IC

廃校活用プロジェクト

本町の廃校活用プロジェクトは、平成29年3月に廃校となった4小学校に企業を誘致するものであり、これまでに全ての小学校について、廃校から3年間で企業への無償貸与の契約を完了させたところです。

- ・活用の態様は、企業ごとに多岐にわたり、撮影スタジオ及びドローンスクール
- ・(旧東小学校)
- ・団体向け宿泊施設及びカフェ
- ・(旧西小学校)
- ・コールセンター及び町民向けITなんでも相談所 (旧長南小学校)

と、それぞれの企業が事業を展開しており、町の賑わいにも変化がもたらされているのを日々実感しています。残る1校(旧豊栄小学校)についても、本年4月に契約を完了し、通信制高等学校を中心とした学びの場が運営される予定です。

このように、町に変化をもたらしてくださった企業が長南町に根付き、発展的に事業を行えるよう、廃校活用企業間の協議会を立ち上げており、企業間の連携や、課題の共有・解決の場となるようサポートしてまいります。



■ちょうなん西小カフェ

歴史と文化の薫風



■笠森寺観音堂 (国指定重要文化財)

長い年月をかけて豊かな文化を育み、歴史を積み重ねてきた私たちの町には、先人から受け継いだ文化や歴史遺産が数多くあります。房総有数の大型古墳である「能満寺古墳」、室町時代から滾々と湧き続ける、環境省認定の全国名水百選のひとつ「熊野の清水」、そして桃山時代に建立された国指定重要文化財の「笠森寺観音堂」と、枚挙に遑が無いほどです。

また、静和女学校、上埴生学館と言った現在の高等学校のルーツを有し、東京家政大学の校祖である渡邊辰五郎を輩出するなど、主に教育の分野で文化の源泉となっていた縁は、現在にも受け継がれており、東京家政大学と町は連携協定のもと、活発に交流を続けています。

長南町データ

町役場/〒297-0192 千葉県長生郡長南町長南2110番地 TEL/0475-46-2111
ホームページアドレス <https://www.town.chonan.chiba.jp/>



長南町マスコットキャラクター ちよな丸



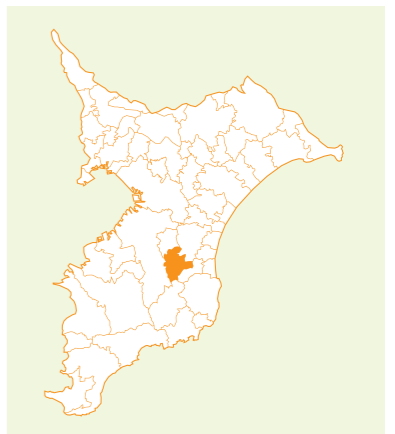
町章

「長ナン」をデザインの基本として、特に「ナン」は4ヶ町村合併(庁南町、豊栄村、東村、西村)を表し、4本の力強い線で結びつけ、中央の空間は大きな理想と希望と限りない発展をイメージさせています。

人口世帯数

人口	7,752人
男性	3,839人
女性	3,913人
世帯	3,234世帯

2020年9月1日現在



里山のおもてなし

こうした人々の営みを支えてきたのは、豊饒な大地からもたらされる恵みにほかならず、わが町の農業の礎ともなっています。そして、時代を経ても変わらずに保全された景色は、今を生きる我々の目に、どこか郷愁を想起させるものとなっています。本町で最も標高の高い野見金山からは、そうした景色を一望することができ、併設の野見金山展望カフェ・ミハラシテラスにてコーヒーなどと一緒にお楽しみいただけます。

本町にお越しの際は、こうした新しいスポットも、私たちがずっと見守り続けてきた数多の旧跡も、そして、里山の風景と食も、ぜひ欲張りにお楽しみいただければと思います。



■野見金山展望カフェ・ミハラシテラス